

### Ⅲ 環境教育事業（加瀬澤）

#### 1 環境教育事業一覧

「現在、温暖化や自然破壊など地球環境の悪化が深刻化しており、環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題となっている」（文部科学省、環境教育より引用）ことから、環境問題や環境保全に主体的にかかわることができる能力や態度を育成する“教育”の役割が、より一層重要になってきています。環境教育とは、環境問題解決のための教育であり「自然の中で（in）自然について（about）自然のために（for）」という3つの要素があると整理されており、この要素を対象者に合わせてバランスよく含んだものが環境教育であると言われてしています。

環境教育を推進することは、人が生きていく上で必要不可欠である自然に目を向けて、自然に学び、自然と折り合いをつけながら生きていく方法を自分なりに考え、実践する人を育てることになります。さらに、自然に学ぶ実体験は、個人がより良く生きていくための手掛かりとなります。環境教育の成果は目に見えにくく、すぐに表れるものではありませんが「未来のための教育」と捉え、事業を継続することが重要だと考えています。

事業は野外活動が中心となり、雨天の場合は中止又は延期となるため件数に変動がでますが、毎年度、月に平均4件の環境教育事業を実施しています。「3 講演・研修・ツアー」は主に、市内外の大人に向けた人材育成と捉え、一つの項目にまとめました。事業参加者数の推移で、平成30年度の参加者数が減少している理由は、市内小学校体験学習の参加者である小学生数が減少していることが考えられます。

次の表は、年度ごとの事業一覧です。

#### 〈平成28年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数 (人)	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	12	64	826
2	森の子コレンジャー活動	15	24	189(※1)
3	講演、研修、ツアー	12	228	130
4	市の森づくり事業	1	20	19
5	出展	2	—	—
合計		42	1,500	

※ 雨天中止 1 件 (No.3 講演、研修、ツアー)

※1 延べ人数

〈平成29年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数(人)	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	12	63	853
2	森の子コレンジャー活動	17	13	163(※1)
3	講演、研修、ツアー	19	192	160
4	市の森づくり事業	1	21	17
5	出展	3	—	
合計		52	1,482	

※ 雨天中止3件(No.2 森の子コレンジャー活動、No.3 講演、研修、ツアー)

※1 延べ人数

〈平成30年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数(人)	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	11	53	685
2	森の子コレンジャー活動	13	28	146(※1)
3	講演、研修、ツアー	23	248	186
4	市の森づくり事業	1	24	18
5	出展	2	—	
合計		50	1,388	

※1 延べ人数

## 2 主な事業内容

### 2-1 市内小学校体験学習

平成24年度から、子どもたちのより良い自然体験学習を作るため、学校と森林レンジャーあきる野の連携により小宮地区体験学習を実施しています。学習の場は、平成24年3月に閉校した小宮小学校で、今では市内外の方に活用されている「小宮ふるさと自然体験学校」です。使用するルートは、郷土の恵みの森づくり事業において、地域住民が復活させた昔道などとなります。ルートは、地域住民やレンジャーが定期的に見回り、整備をしているので、子どもたちは毎年安全に体験することができています。対象は、学校教育の学習指導要領に定められた理科、社会科、総合的な学習において「身近な自然の観察、地域の人々の生活、飲料水」などについて学ぶ3、4年生となります。



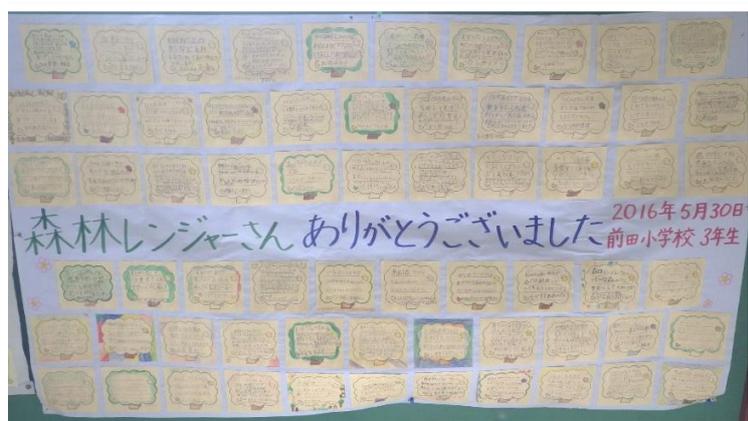
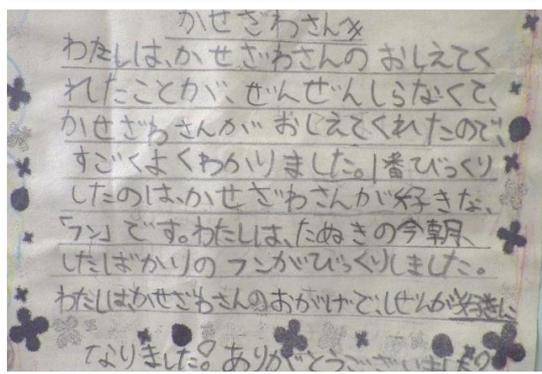
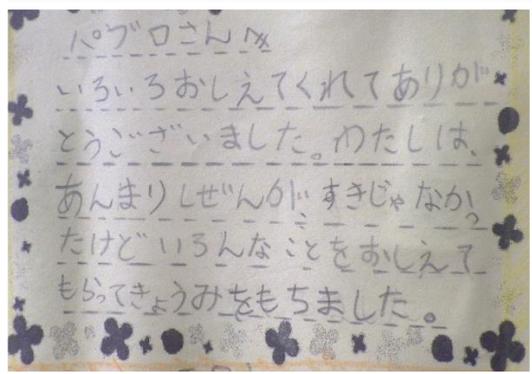
体験学習の実施に当たって、小学校の先生と事前に打合せと実踏を行っています。打合せでは、先生が作成した学習実施計画案を基に、先生とレンジャーが児童に体験してほしいことや学習のねらい、役割などについて共有し、学習内容を決定します。実踏では、トイレや休憩場所、危険箇所などを確認し、安全管理を行います。

レンジャーが行う自然環境教育は「自然愛や郷土愛を持った次世代が育つこと」を念頭に、子どもたちと森を歩き、出会う地域の自然や歴史・文化について紹介します。学校教育では、体験学習での実体験をより深い学びにつなげるための事前・事後学習を行います。この連携によって「子ども自らが自然の中を歩き、発見し、体と心で体験し、考え、相互に学ぶ学習」が作られていることから、文部科学省が推進している子どもの生きる力を養う学習方法「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」（令和2年度に小学校で本格導入される）に関わりがあると言えます。これは、体験を終えた子どもたちの感想からも見てとれます。普通の学校では味わうことのできない「実体験に基づく学び」を持ち帰っています。

このように、学校とレンジャーが実践する地域の自然・施設・人材を活かした小宮地区体験学習は、地域に残る自然や文化を伝えるだけではなく、子どもたちの生きる

力を養い、持続可能な社会づくりのための次世代を育む一助を担っています。また、体験学習を終えて「もっと自然を知りたい、自然のために活動したい」という思いを持つ子どもたちが、自然のための活動である「森の子レンジャー」に加入しています。

- 事後学習で子どもたちが書いた体験の感想がレンジャーに届きます。頂いた感想は、小宮ふるさと自然体験学校に掲示しています。



## 2-2 森の子レンジャー活動

森の子レンジャー活動は、平成23年度から「自然愛や郷土愛を持った次世代を育てる」という目的で、市内の小学4年生から6年生までの20人（平成30年度からは14人）と年間を通して活動しています。毎年度約10回（非正規の活動を含めると平均15回）活動しており、本市の自然の素晴らしさを自ら体験・発見するだけではなく、現在起こっている地域の環境問題を知り、解決のための行動について学ぶ、自然のための活動です。活動の舞台は自然の中であり、野外での安全な振る舞いも含めて自然に学んでいます。

環境教育には子どもの成長に合わせた学びの段階があり、小学校低学年時に「気づき」、中学年時に「知る」、高学年から中学校時にかけて「考える、行動する」という段階に進むことが適当だと言われていています。しかし、自然への関心が高く、自然のために行動したいという思いを持ったレンジャーは、1年を通して3つの段階を踏みながら、自然の多様性、生命性、生産性、関係性、有限性、自然と人の関わりを体験から学ぶ構成としています。そのため、活動では子どもたちの探究心を大切にしており、レンジャーが自然について教えるだけではなく、自ら感じ、調べ、考え、行動する力を育む要素を加えています。その中で、レンジャーが行う自然のための活動（2-5「アニマルサンクチュアリ活動」参照）に協力してもらい、自然と向き合う大人の姿を見せることも大切にしています。また、市の事業でも市内外の人との交流や体験のサポート、解説などを通して、子どもが育む自然愛を発信する機会を作っています。

- 主な活動は野外となるため、保護者の方のご理解とご協力が大前提となります。始動する前に保護者説明会を開催し、活動の趣旨や活動する環境、危険などについて説明し、同意を頂いた上で活動への参加をお願いしています。







- 毎回、活動の最後には、子どもが体験を振り返り、感じたことや学んだことを活動報告書にまとめています。体験したことを、絵や言語化することは、より深い学びにつなげる要素となり、活動を考える上で大切な資料になります。また、子どもの成長記録になるだけでなく、環境教育の効果が分かりやすくなるものとなります。

第6期 森の子コレンジャー活動ほうこく書

名前	月日	天気	温度
	7月15日	曇り時々雨	6度
活動の目的	冬 動物のレストランのくりにん 冬芽		
自分の目標	冬へのんかを見る		
時間	ないよう(いった場所のじょうきょう、やったこと、見つけたもの)		
10:00	出発		
	サンニンカスラ、テイカカスラ、をいほけん		
	池にコオリが厚さ8mm・9mm		
	① リスの食べたワルミは、けんく 冬芽がコオリけん		
	マコウツ マンリョウはけん! ② ③ ④ ⑤ ⑥		
10:30	動物レストランとうちく 冬芽がかな...カモシカ?かいて病		
2:00	冬芽をかんさつ マルバアオカモ ムラサキツキ		
	痛ってきた。		
特にきょう味をもったこと、学んだこと、疑問に思ったことなど	今日知ったこと・ものとのつながりや発見したこと		
動物レストランにたくさんのこんせま カがありびっくりした。色々な たぬきがかまわってかたわ りそうだった。 ④ 池のこおりが8mm・9mmくらい あってすごいとおもった。	うさぎは、植物をきれいに スパッときるけれどシカ ははきさばさでかみち ぎっていた。		
今日の感そう 冬芽のいみをしるてはかた。鳥を見にい きたから、たけいどかせちんちんいいてはかた	次の活動で学びたいこと、やってみたいこと		

第7期 森の子コレンジャー活動ほうこく書

名前	6月11日	天気	くもり	温度	23℃
今日の目的	鳥を学ぶ! 鳥をさがす! みつける!				
自分の目標	鳥のことをいっはい知る!				
時間	いった場所ややったこと、見つけたもの				
午前	鳥のえさや、夏鳥や冬鳥のこと。				
	鳥しかけんさ。				
午後	<u>お登り山</u>				
	山に登って、知ってる鳥や知らない鳥を見つけた。				
特にきょう味をもったこと、学んだこと、疑問に思ったことなど			発見した「つながり」		
鳥のとくとな鳴き声や、鳥のすかた。			山のかんきょうと鳥が、つながっている。		
今日の感そう	ざんげ	次の活動で学びたいこと、やってみたいこと			
鳥をいっはい学べなくて鳥と山のかんきょうにつなかりがなかった。	鳥と山のかんきょうがあること	鳥のことを、もっとよく知りたい。			

- 「自然を大切にするためには自然を知ることが大切であり、自分が活動で体験・発見したことを多くの人に伝えたい」と調べたことや活動内容をまとめた「森の子コレンジャー新聞」を3年間自主的に作成した子どもがいました。この新聞は、小宮ふるさと自然体験学校に掲示しています。このように、活動に参加した子どもたちが体験・発見したことを家族や友人だけではなく、様々な方法で多くの人に発信しています。



1 森の子コロレシヤ 平成30年 3月8日 袋田 和也

森の子コロレシヤ 新聞

平成30年 3月8日 袋田 和也

森の子コロレシヤ 新聞

三年間の活動を通じて

皆さんは、三年間の活動でトロボと鳥に興味を持ちながらのコロレシヤ活動で、生き物と共生できる環境の大切さを感じました。

例えばボスター作りです。森林レシヤが調査しているドンゲリの豊凶調査を森の子コロレシヤが手伝い、その結果から、野生動物が人里に降りてくることなどが分かるのだから、これを観察して地域の人や観光客に呼びかけをします。その他にも、ボスター作り、野生動物が着る環境を作ります。

これまで自分が学び、活動して守ってきた自然をこれから守り、また、他の人にも自然について知ってもらい、守ってもらうようにしたいです。

森の子コロレシヤ 新聞

平成30年 3月8日 袋田 和也

森の子コロレシヤ 新聞

三年間の活動を通じて

皆さんは、三年間の活動でトロボと鳥に興味を持ちながらのコロレシヤ活動で、生き物と共生できる環境の大切さを感じました。

例えばボスター作りです。森林レシヤが調査しているドンゲリの豊凶調査を森の子コロレシヤが手伝い、その結果から、野生動物が人里に降りてくることなどが分かるのだから、これを観察して地域の人や観光客に呼びかけをします。その他にも、ボスター作り、野生動物が着る環境を作ります。

これまで自分が学び、活動して守ってきた自然をこれから守り、また、他の人にも自然について知ってもらい、守ってもらうようにしたいです。

1 平成28年 9月6日 森の子コロレシヤ 袋田 和也

ドンゲリ豊凶調査

平成28年 9月6日 袋田 和也

森の子コロレシヤ 新聞

今回の森の子コロレシヤは今回で4年目になるドンゲリ豊凶調査を行いました。ドンゲリ豊凶調査とは、「コナラ」「ミズナラ」「アラカシ」「クリ」の4つの木、木のドンゲリの数を調べることです。

結果はコナラは木を切られてしまい、別の木になりましたが、15個前後ありました。ミズナラは10個程度です。アラカシもクリは、たくさんありました。

さるを発見

4にはドンゲリなどがうくなくなっているのかが観察中さるを発見しました。さるのさるでくりを食べていました。

このようにさるが人里に降りてくるしなると、さるが降りる場所にはさるの食べ物が見つからないと考えられます。また、もしミズミを食べてしまい、これはうまじいとなると、もし木へ上がりてしまいます。そのようなことにならないうようにしたいとリけません。

ところが出てきたと考えると、人が作ったものは人が食べ、他の物は動物たちに分けると、このどちらかが中々ないし、どちらかが生きていけなくなると思いました。

学習感想

人が作ったものは人が食べ、他の物は動物たちに分けると、このどちらかが中々ないし、どちらかが生きていけなくなると思いました。

森の子コロレシヤ 新聞

平成28年 9月6日 袋田 和也

森の子コロレシヤ 新聞

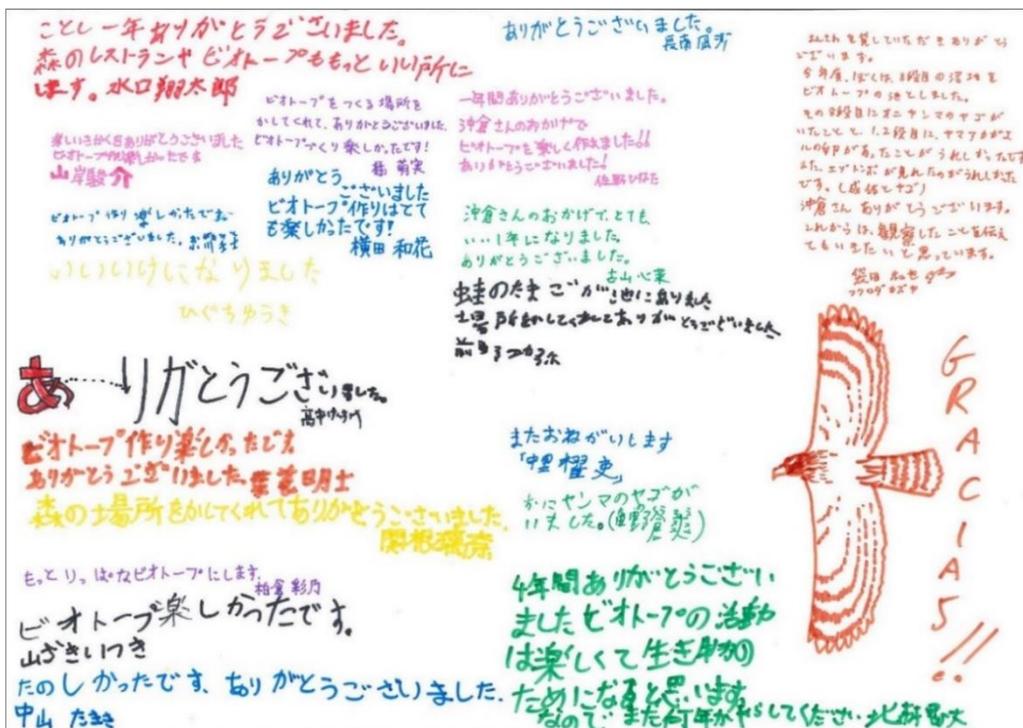
今回の森の子コロレシヤは今回で4年目になるドンゲリ豊凶調査を行いました。ドンゲリ豊凶調査とは、「コナラ」「ミズナラ」「アラカシ」「クリ」の4つの木、木のドンゲリの数を調べることです。

結果はコナラは木を切られてしまい、別の木になりましたが、15個前後ありました。ミズナラは10個程度です。アラカシもクリは、たくさんありました。

- コレンジャー活動では、毎年冬にビオトープ整備を実施していますが、場所は地元の方にお借りしています。次年度の後輩も同じように活動させてもらいたいというお願いと共に、感謝の気持ちを込めて感謝状を毎年お渡ししています。（ビオトープ整備の詳細は、「2-5 アニマルサンクチュアリ活動（2）ビオトープ整備」参照）



第8期森の子コレンジャーが贈った感謝状（表面）



第6期森の子コレンジャーが贈った感謝状（裏面）

○ コレンジャーの活動プログラムは1年間ですが、翌年も継続を希望する子どもが半数以上います。また、コレンジャーを卒業しても「レンジャーや自然、仲間と関わる場がほしい」という思いを持った子どもたちもいました。この思いを受けて、平成26年から同窓会という形で年に数回集まり、自然や後輩の助けとなる活動を行うようになりました。さらに、コレンジャーを卒業しても自然について学ぶ活動を続けていたり、森林サポートレンジャーあきる野に加入してくれたりと自然との付き合いを続けている子どももいることから、自然を愛する次世代が育ってきていることが分かります。

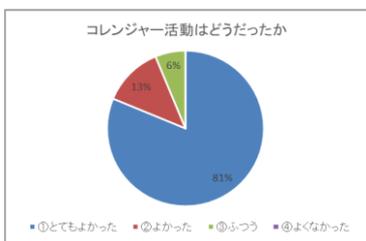


- 平成30年度に東京都で開催された全国育樹祭に参加協力するため、全国で3,000以上の団体が登録している「緑の少年団」にコレンジャーも登録しました（平成29年度）。緑の少年団は、「次代を担う子供たちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていくこと」を目的に活動しています。

平成29年度は、東京都の少年団が自分たちの活動内容を発表する「東京都緑の少年団活動発表大会」に参加し、コレンジャーも発表しました。平成30年度は、全国育樹祭で他県の少年団へ贈呈される苗木の育成や式典会場を飾る多摩産材プランターカバー制作などを行い、第42回全国育樹祭に参加しました。式典では、代表者4名が「皇族殿下御誘導」や「緑の贈呈（苗木）」の役割を担いました。全国育樹祭を通して、自然を愛する仲間が全国にいることを知るなど、普段の活動では経験できない貴重な機会となりました。



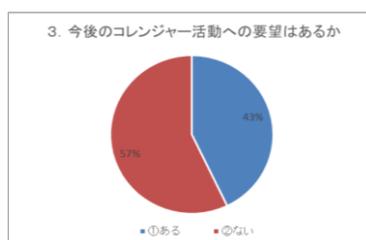
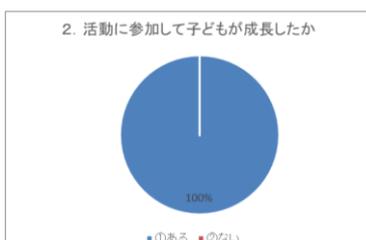
○ 森の子コレンジャーアンケート結果（第7期から）



① 活動はどうだったか（第6、7、8期から抜粋）

- ・ 自然のことを少人数で楽しくたくさん学び、仲間と協力できた。
- ・ 大変だったことも、頑張っ乗り越えて行けば、いいことがあると思った。
- ・ 自分の自然への興味や疑問を知れた。また興味が広がった。
- ・ まだ知らない自然のことを学び続けて、将来森林レンジャーになりたい。

○ 保護者アンケート結果（第8期から）



① 活動はどうだったか

- ・ 自然を学ぶことに重点をおいた他ではできない活動でとても貴重だった。自然を知ること  
で人の営みや自分の生活を振り返り、子どもなりに感じ考える所があった様だ。
- ・ 本やテレビからの知識ではなく自分で体験して得たものは、自分についてよく考えること  
から始まり、他者のことも考えられるようになってきた。
- ・ 親としても子どもの活動を通して間接的だが野生動物などを身近に感じられた。自然のこ  
とを家族で話すことができ楽しかった。
- ・ 学年が違う仲間やレンジャーとの活動は家庭では経験できないこと。
- ・ 年間を通した活動は、自然の変化を自分の肌で実感することが出来た。
- ・ 自分の住む市の自然の素晴らしさを知る活動だった。
- ・ ただ自然の中で活動するのではなく保護する為の事も知ることができたのが、本人は嬉し  
かったようだ。

② 活動に参加して子どもが成長したか

- ・ 見えていること理由や原因もちゃんと考えられるようになってきた。
- ・ 他者のために配慮できるようになった。
- ・ 体験や学んだことで本人の自信につながっている。

- ・ 自分をうまく出せなかった子が自分で決めて行動するだけでなく、発表できるようになった。また、自分の中だけで終わらず人に伝えられるようになった。
- ・ どうしたら動物達が人間と共存できるか考えるようになった。
- ・ 仕度が自分でできるようになった。責任感のある人間になった。
- ・ 物事に対するアプローチの幅が広がった。

### ③ 活動への要望

- ・ 活動回数を増やしてほしい。
- ・ 卒業後も、時々帰れる場所になってほしい。
- ・ 同窓会以外にも手伝えることがあれば声をかけてほしい。
- ・ 一人でも多くの子どもが参加し学んでほしい。
- ・ あきる野の自然を活かした活動を、これからも続けてほしい。

### ○ まとめ

コレンジャー活動は、レンジャーが考える自然のための活動ですが、子どもたちにとっては大好きな自然について学ぶ場であり、自然を愛する仲間と自然のために協力できる場です。子どもたちは活動を通して、自分の“力”を育てていることがアンケートの結果からも見てとれます。特筆すべきことは、様々な情報や答えがすぐ手に入る時代に、子どもたちは実体験を通して「答えを知ること」ではなく「答えを知るための過程」を自分で選び作ることの楽しさ・大切さを学んでいます。その経験の中で、自分を育て自分に自信を持ち、仲間や自然との関係を築いていることが、子どもの変化や保護者アンケートの結果からも分かります。

このようなことから、自然や地域、参加した子どもたち、保護者から学んだことをキーワードとして実施するコレンジャーのプログラムは、環境教育的な効果（※）が高いと考えています。以下に、これまでの活動で得たキーワードをまとめます。「誰もができる環境教育活動」の一例として、様々な団体の活動の一助になることを願っています。

※ 環境教育は、環境問題解決のための教育であり、問題解決のためには「主体性のある人」を育てることが重要であると考えられています。

#### 自然のための（森の子コレンジャー）活動のキーワード

- ★ 自然に学ぶ、互いに学ぶ
- ★ 子どもの探究心
- ★ 対象者に合わせたプログラム
- ★ 1年間
- ★ 気づき、知る、考える、行動する
- ★ 持続可能性
- ★ 自然と向き合う大人の姿

○ 年4回発行している「森の子レンジャー通信」(第6期から8期まで)

**Morinoko CORANGER**  
あきる野

**森の子レンジャー通信**  
2016. 5、6月号  
発行：森林レンジャーあきる野



2016年5月15日の日曜日、曇り。  
今年で第6期目となる森の子レンジャーが始動しました!

継続参加者8名と新規参加者12名の20名。1年間森林レンジャーと共に活動していきます。始動式では、新規参加者にレンジャーの証である帽子を、全てのレンジャーに野帳とペンを渡しました。

継続して参加しているレンジャーには、レンジャーや自然から教わったことをリーダーとして新しいメンバーに伝えてほしい、自分が興味のあることを追求してほしいと伝えました。新しいメンバーには、はずかしがらずにレンジャーやリーダーに話しかけて1年間を大切に過ごしてほしい、と話しました。

「あなたをレンジャーとして認定します  
仲間と絆を結び あきる野の自然とふれあい  
学ぶことを目標に 1年間楽しく活動しましょう  
そして素晴らしい自然を発見し 学び合い 共に守っていきましょう」

レンジャーとして活動していく1年間、この気持ちを心に自然や地域への思いを仲間と共に育ててほしいと思います。  
(かせちゃん)





# 森の子コロレンジャー通信

2016. 7. 9月号  
発行：森林レンジャーあきる野



7月は、3チームに分かれての活動となりました。内容は「かずや新聞」をどうぞ～！

活動の最後はチームごとに発表です。どんな活動をして何を思ったのか、学んだことなどを共有します。



パブロチーム なぎさとあきと



たいちようチーム めぐみとひなた



かせちゃんチーム こうたといっちゃん

平成28年7月20日 森の子コロレンジャー 7月号

## 森の手

今日、森の子コロレンジャーが、森林レンジャーの講義を受けました。森林レンジャーの講義は、森林の大切さや、森林の役割、森林の歴史、森林の未来などについて学びました。また、森林の大切さを伝えるために、森林レンジャーの活動に参加しました。森林レンジャーの活動は、森林の大切さを伝えるだけでなく、森林の保護や、森林の再生にも取り組んでいます。森林レンジャーの活動は、森林の大切さを伝えるだけでなく、森林の保護や、森林の再生にも取り組んでいます。森林レンジャーの活動は、森林の大切さを伝えるだけでなく、森林の保護や、森林の再生にも取り組んでいます。

### 学習感想

今日は、森林の大切さや、森林の役割、森林の歴史、森林の未来などについて学びました。また、森林の大切さを伝えるために、森林レンジャーの活動に参加しました。森林レンジャーの活動は、森林の大切さを伝えるだけでなく、森林の保護や、森林の再生にも取り組んでいます。森林レンジャーの活動は、森林の大切さを伝えるだけでなく、森林の保護や、森林の再生にも取り組んでいます。森林レンジャーの活動は、森林の大切さを伝えるだけでなく、森林の保護や、森林の再生にも取り組んでいます。

**パブロよりみんなへ「へびについて」**  
マムシは毒を持っています。「危険な生き物」だと嫌われていますが、稀少な動物であるため、みんなと一緒に見ることでできて良かったと思います。

へび類がじっとしているのは獲物を狙っている時だけではなく、ほとんどの場合が適切な体温にするためにじっとしています。爬虫類は、まわりの温度によって体温が変化するので、暖かい場所や涼しい場所へ移動して適切な体温に調節する必要があります。

みんなで見つけた時のマムシはおなかをふくらんでいます。体温調節が必要で、じっとしていたのだと思います。

へび類は、比較的暖かいアスファルトや石畳などでじっとしていることが多いので観察してみてくださいね！

## 7月の活動 ～森林レンジャーより～



スライドで勉強してからフィールドに出かけました。先輩コロレンジャーと作ったピオトーブを見学し、生息するようになった水生昆虫や水生齧を調べました。初めてエントムポの仲間であるクアネトンポのヤゴを確認することができたので嬉しかったです。一歩、オニヤンマに影響が出ていると見られ、対策の検討が議題になりました。

ピオトーブの後は、開けた場所の草原でバッタなどの仲間を調べました。ニホンマムシやカヤネズミの古い嵐などを発見しました。

やっぱり夏は生き物が多いですね。

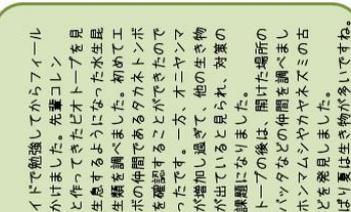


こうたがイラクサを紹介、お風呂にみんなで見学し、草抜きしながら植物調査。ツユクサに飲んでいるチチミザサの葉っぱを、草抜き完了で自分たちの入口設置。センターカメラに映ったのはレストランに訪れたタタキ！「冬を楽しみにしていますね！」みんなお疲れ様でしたー！！



午後、星竹林道から少し山に入った所でキノコ観察をしました。みんなから食べられる？毒キノコ？との質問が集中しました。今回は、森の中のキノコの役割の説明をしました。難しくは、菌類と腐朽菌の話で、キノコの本質を理解してもらいました。

中型のテンツタケ、大型のイグチの仲間、小型のアンスタケなど沢山のキノコの観察が出来ました。



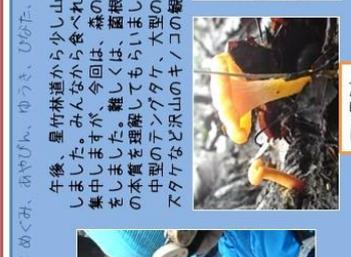
小動物調査 バプロチーム：めぐみ、ひなた、そら



動物のレストラン準備 かせちゃんチーム：めぐみ、ひなた、そら、りな、たまき、いっちゃん



アンスタケ



テンツタケ

イグチの仲間は古く、種類を特定することは出来ませんでした。





# 森の子コレンジャー通信

2016.10、11、12月号  
発行：森林レンジャーあきる野

## 10月の活動は—夜—



出発前のレクチャー



ライトの使い方



ニホンジカの声が聞けるかな？



じっと耳をすまます...



ニホンヤモリ発見！



カエル発見！

10月の活動は夜の観察でした。目的は「ニホンジカの声が聞こえるかな？」。出発前には隊長からレクチャーがありました。夜行性だと思っていた野生動物のことを、もう一度考え直すきっかけになったのではないのでしょうか。しかし何よりも、自分の体験から発見することの方が大事！夜の観察やライトを使う注意点を確認し、夕食を済ませたら出発！

じっと待つ・・・静かにじっと待つ・・・しかし、時間オーバー。残念、今日はニホンジカは鳴きませんでした。みんなに体験してほしいけれど、自然は思い通りにいかないもの。帰り道では、ニホンヤモリ、カエルを発見しました。各隊前のヤモリに会えてかせちゃんが大興奮していました。

シカの声は聞けなかったけれど、夜の観察において大切なことを学び、自分の体験から何かを感じたのでしようか？

## 11月の活動は—山—

11月の活動は森林レンジャーの仕事の一つである「巡視」も兼ねてみんなで登山でした。これまでの活動ではなかった長い山歩きとなりましたが、天気は暖かく快晴！ルートは檜原村糸原から馬頭川尾根へ登り小宮までという普段の巡視の半分程度のルートです。登る前に、衣服の調整や飲み物、地図の読み方、私たちがふるまいる山に入る時の注意点をレンジャーから説明した後出発しました。

スタート地点の標高は351m、登りのゴールである馬頭川山が884mで今日の最高地点。途中に出会う自然の解説や休憩をまじえ、533mの標高差を登りました。夕食を済ませ馬頭川山、小馬頭川、高明山をへて予定通り15:00に標高230mの小屋に到着。あつという間の登山だったのではないのでしょうか。一人一冊地図を持って、等高線を読みながらこれから登る所を想像したり、今自分がいる所を判断したところのほかに、動植物、野生動物の痕跡、暗い森、明るい森、見晴らし、道標、管理番号など盛りだくさんの中に、それぞれの心に残った自分の発見は何だったのかな。



見晴らし、山歩き



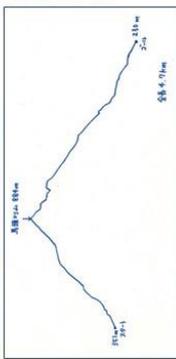
道標と管理番号（左から重道自治会、檜原村、東京都管理）



等高線(同じ高さの地点を結んだ線) 幅が狭い=傾斜がゆるい 幅が狭い=傾斜が急



※「国土交通省 国土地理院」HPにはある「子どものページ」に地図記号一覧があります。







3月の活動はーピオトープー



第6期最後の活動は、12月に実施したピオトープ整備の続きでした。期、こうたから13年間ありがとうございました。これ！来年のコレンジャーで使ってね。」と、活動に欠かせない子ども用運手をいただきました。6期最後の活動で寂しさをこらえていたのも、突然のこうたの言葉に涙があふれてしまいました。こちらこそ3年間ありがとうございました！予定していた整備を終え、学校に戻って終了式を行いました。それぞれコレンジャー活動を終えて発表していましたね。みんなの前でしっかりと活動してくれてありがとう！！



ピオトープまでの道の整備



池の整備



池の周りの草の整備



保護者の皆さんと整備 3月19日



コレンジャーとやりきれなかった整備にご協力いただきありがとうございます！共に活動する中で「たくましい子ども達の姿に大人と子どもとが関係ない」と感じ保護者の方も感動したようです。自然を中心に共に活動できたことに感謝します。ありがとうございました！！



# 森の子コレンジャー通信

2017、始動式 号  
発行：森林レンジャーあきる野

## 第7期森の子コレンジャー始動！



2017年5月21日の日曜日、晴れ。  
今年で第7期目となる森の子コレンジャーが始動しました！

継続参加者10名と新規参加者8名の18名。1年間森林レンジャーと共に活動していきます。始動式では、新規参加者にコレンジャーの証である帽子を、全てのコレンジャーに野帳とペンを渡しました。

継続して参加しているコレンジャーには、レンジャーや自然から教わったことをリーダーとして新しいメンバーに伝えてほしい、自分が興味のあることを追求してほしい、新しいメンバーには、はずかしがらずにレンジャーやリーダーに話しかけて1年間で大切に過ごしてほしい、と伝えました。

「あなたをコレンジャーとして認定します  
仲間と絆を結び、あきる野の自然とふれあい  
学習を目標に、1年間楽しく活動しましょう  
そして素晴らしい自然を発見し、学び合い、共に守っていきましょう」

コレンジャーとして活動していく1年間、この気持ちを胸に、自然や地域への想いを仲間と共に育ててほしいと思います。  
(かせちゃん)

### 活動のようす

始動式のあとは、リーダーに木の持ちようなどを教えてもらいながら名札を作りました。自己紹介をして、お屋敷を建てる森へ出発ー！千と千尋の虫、水面を走るクモ、ミミカ、タテナンシヨウサの葉（未熟）、オタマジャクシ軍団、シカの鳴き声と足あと、カミキリムシに似ている虫、アオダイショウなど...色々発見しましたね。  
自然が好きな子が集まり、自然を中心に仲間と協力して活動できる予感かした一年の始まりとなりました♪



### 発見した動植物



♪活動で撮影した写真は、1年間の活動終了後にDVDにまとめ、お渡しする予定です♪